



Honoring Julian Barnard's Legacy

by Richard Katz and Patricia Kaminski.



尊敬する同僚ジュリアン・バーナード（1947-2026）は、2026年9月13日にこの世を去りました。ジュリアンは、バッチフラワーレメディの原点に関する優れた研究

業績を残しました。各植物とその生育環境を網羅したビデオライブラリー、エドワード・バッチ博士の発見に関する非常に詳細な写真研究、そして数々の著名な出版物などが含まれます。彼は、最高品質かつ生育環境の完全性を確保した植物源からバッチフラワーレメディを提供するために、ヒーリングハーブ社を設立・発展させました。さらに、バッチフラワー療法の実践者の世界は、彼が勇気をもって勝ち取った、エドワード・バッチ博士の名前を商業的・企業的な利益を超えて自由に利用できる法的勝利に深く感謝しています

バッチ博士の植物と、それらが自然界に残す生きた痕跡への深い敬愛

ジュリアンは、ウェールズとの国境を越えたすぐ向こうにヒースに覆われたシュガーローフ山を望むヘレフォードシャーに自宅とレメディ製造の工房を構えました。雄大なアスク川は近くのウェールズを流れ、バッチ博士は1928年にそこでインパチェンスとミムラスのフラワーエッセンスを初めて作りました。

ジュリアンにとって、バッチ博士の植物は力強く生き生きとしており、強い情熱で彼を呼んでいました。彼の生涯の情熱は、植物の魂そのものを理解すること、そしてさらに、バッチ博士の魂がどのようにこれらの植物に宿っているのかを理解することでした。私たちはジュリアンと共に、栗、ブナ、ヒイラギ、ヒースなど、多くの植物に出会う機会に恵まれました。ジュリアンの目に宿る輝きと、それぞれの植物に真に宿り、その特徴と癒しの本質を理解しようとする彼の熱烈な探求心に、私たちは心を打たれました。ジュリアンは、それぞれの植物の最高の特性が見られる最高の生育地を常に見つけ求めていました。例えば、バッチ博士がニレの木のフラワーレメディを調合した元の生育地が、現在ではニレ立枯病によって荒廃していることを、ジュリアンは私たちに示してくれました。彼は、産業汚染や不動産開発によって元の場所ではもはや生育できなくなった他の多くの植物と同様に、新しい、手つかずの場所を求めて広範囲に探しました。

ジュリアン・バーナードの著作：バッチ博士の発見に新たな光を当てる

ジュリアンは、バッチフラワーとの真摯で生き生きとした関係を通して、バッチ博士の発見に新たな光とインスピレーションをもたらしました。特に、バッチ博士は

それぞれの植物に治療上の適応症を残しましたが、これらの特性が植物自体の中でどのように理解できるかについてはほとんど探求していませんでした。ジュリアンは、それぞれの植物に対する鋭い直接的な観察と、その治癒特性に関する洞察に満ちた考察を特徴とする『エドワード・バッチの癒しのハーブ：フラワーレメディの図解ガイド』（現在は新版『バッチフラワーレメディ：内なるエッセンス』として入手可能）を最初に出版しました。彼のさらなる重要な著作である『形態と機能』では、それぞれの植物の驚異と神秘、そしてそれらが人間の魂とどのように関係しているかをさらに深く掘り下げています。ジュリアンは、バッチ博士のそれぞれの植物の形態、色、成長パターンの生息環境と言語を探求する補足的な出版物、写真研究、完全なビデオライブラリによって、この知識の蓄積をさらに充実させました。

さらに、ジュリアンは、バッチ博士の様々な著作、特に治療薬の調合方法に関する記述をすべて収集するという、大変な作業に尽力した。この注目すべき、そして非常に貴重な著作集は、『エドワード・バッチ著作集』という一冊の本として出版されています。

バッチ博士の名誉と遺産を守るための、勇気ある法廷闘争と画期的な判決

ジュリアンは、自由こそが癒しと人間の幸福の真髄であるというバッチ博士の確固たる信念を共有していました。バッチ博士は、自身の植物療法の発見が全人類に何の制約もなく自由に利用できるようにするため、医学界の階層構造や正統派の制約から脱却しました。しかし残念ながら、バッチ博士の死後、その名は商標として登録され、商業目的で独占されてしまいました。バッチ博士の治療遺産との自由な文化的結びつきを追求した実践者、教師、著述家たちは、様々な形の脅迫や威嚇、さらには訴訟にまで晒されることになったのです。

ジュリアンは、多大な時間と資金を費やし、並外れた勇気と信念をもって、10年近くに及ぶ激しい法廷闘争を繰り広げました。英国と欧州連合の両方で行われたこれらの厳しい法廷闘争は、バッチの名前の所有権を主張していた商標を覆す結果となりました。英国では、ジュリアンは最高裁判所である貴族院まで訴訟を進めました。そして2008年には、欧州連合全体を代表する商標庁を相手に、決定的な法的勝利を収めました。

これらの勝利を成し遂げるために必要とされた、魂の勇氣、揺るぎない決意、そして精神的な強さを表現する適切な言葉は見つかりません。これらの画期的な法的判決の重要性は計り知れないほど大きな影響を及ぼしており、中でも最も重要なのは、バッチの名を純粋な商業的現実から切り離すことで、バッチ博士自身が意図したとおり、彼の癒しの遺産を世界に自由に共有できるようになったことです。

最高水準の誠実さと純度を誇る植物療法 — バッチ博士の癒しのハーブ

1936年にバッチが亡くなった後、フラワーレメディの調合は、彼の献身的な助手であったノーラ・ウィークスとヴィクター・ブレンによって引き継がれました。1962年、ニッキー・マレーがノーラ・ウィークスに加わり、エッセンスの調合、特にバッチレメディそれぞれの適切な種と生育地の特定に関する訓練を受けました。

1978年、ノーラ・ウィークスが亡くなり、バッチ博士の事業を引き継ぐ責任はニッキー・マレーに託されました。ニッキーは弟のジョン・ラムセルと共に事業に携わりました。ニッキーはジュリアン・バーナードにバッチ・レメディの調合方法を指導し、彼が後継者としてふさわしいと示唆しました。しかし、ニッキー・マレーが1988年にスピリチュアルな活動に専念するために退任した後、バッチ・センターはジョン・ラムセルの支配下に入りました。バッチ・センターのフラワーエッセンス事業（バッチ・フラワー・レメディーズ社）は、その後1993年にA.ネルソン社に売却されました。

ニッキー・マレーの励ましを受け、ジュリアン・バーナードは1988年にヒーリングハーブス社を設立し、バッチ博士の本来の効能と方法に基づいたフラワーレメディの製造を開始しました。バッチ博士の各レメディに対するジュリアンの深い愛情と正確な知識、そしてレメディ製造における高い倫理観と精密さは、世界中の施術者から高く評価される会社へと成長させました。ジュリアンは、献身的で高度な訓練を受けた専門家チームを残し、彼らは今後もバッチ博士のヒーリングハーブス・レメディを世界中に提供し続けていきます。

締めくくりの考察：ジュリアンの人生の遺産

ジュリアンの生涯の功績に対し、感謝と賛美の祈りを捧げて締めくくりたいと思います。ジュリアン・バーナードほど、バッチ博士の先駆的な植物研究を広め、人々

にインスピレーションを与え、その意義を称え、擁護し、大切にしてきた人物は他にいません。ジュリアンの逝去は胸が張り裂ける思いですが、彼が私たちに残してくれた数々の贈り物の永続的な遺産を考えると、心が温まります。ジュリアンの魂を思うとき、私たちは彼が光の兄弟であるエドワード・バッチと喜びのうちに再会する姿を思い描きます。この二人の献身的な存在は、これからも人類への愛と献身を放ち続け、花の魂の働きを通して、私たち一人ひとりがより大きな恵みと目的をもって奉仕し、癒されるよう導いてくれると確信しています。